科目名			担当教員	
福祉心理学演習			山口　奈緒美	
科目コード	単位数	スクーリング単位	履修方法	配当年次
FP5571	2	1	SR（講義）	4 年以上
履修登録条件		受講条件の達成に必要な科目をすでに履修登録済みか、同時に履修登録をする方のみが履修登録可能です。		
生成 AI 利用レベル		レポート　：　C	試験（スクーリング含む）　：　C	

※担当教員によって演習の内容がまったく異なります。『With』の案内に従い、希望教員のスクーリング予備登録・受講申込みをしてください。
※中村先生と山口先生の演習を、1 年に 1 クラスのみ、交互に開講する予定です。2026 年度は中村先生の演習です。
※いずれか 1 名の教員の演習しか受講できません。
※社会福祉学科の方は履修登録・受講できません。
※購読する論文文献は自身で入手していただきます（大学からの配本はありません）。
※心理系の大学院進学予定者は受講をお奨めします。
※この科目は、スクーリング受講にあたって条件がありますので、ご注意ください。

担当教員	内　容
中村恵子先生	職場の問題解決演習・グループスーパービジョン
山口奈緒美先生	文献講読（社会心理学領域）

科目の概要

■科目の内容

心理学領域の講義を受けていると、さまざまな知見が示されることと思います。例えば、単純接触効果、ピグマリオン効果、ハロー効果、バーナム効果…。人々の心の一般法則が多種多様に示されていますが、そのような効果や知見がどのように見いだされたのか、考えてみたことはありますか？

緻密で精巧な実験や調査によって生み出されています。この演習では、「心理学研究」「社会心理学研究」「実験社会心理学研究」に掲載されている論文のうち、受講生の皆さんひとりひとり最も関心のある論文を講読し、論文の内容を理解し、問題点を発見する力を身につけます。

■到達目標

１）論文の「背景・目的」部分を正しく読み取ることができる。
２）論文で示されている仮説を検討するためにふさわしい方法が採用されているかどうか判断できる。
３）結論が適切な手続きや結果によって導かれているかどうかを判断できる。
４）論文の問題点に対して改善方法を提案できる。

■学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連

とくに「実証的分析力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価 80%＋スクーリング評価 20%

■教科書・参考図書

【教科書】

2027 年度は特に使用しません（文献は自身で入手してください。大学からの配本はありません）。

【参考図書】

浦上昌則・脇田貴文『心理学・社会科学研究のための調査系論文の読み方』東京図書、2008 年

スクーリング

■スクーリング受講条件

1）受講希望者は期日までに履修登録をし、「福祉心理学演習」予備登録をメールで行ってください。

予備登録は下記のことを記載してメール　ua@tfu.ac.jp へ送信してください。

①「福祉心理学演習」2027 年度受講希望　②学籍番号　③氏名

2 ）「TFU オンデマンド」https://web.netrecorder.jp/tfu/　が利用できる環境にあること。

3 ）予備登録締切日までに、90 単位以上の単位修得をしていること。

4 ）予備登録締切日までに、下記の学習をしていること。

科目名	履修方法	単位修得	レポート提出	スクーリング受講
統計情報を見る眼または心理学統計法	RorSR	○		
心理学概論 A・B	RorSR	○		
福祉心理学	RorSR	○		
社会・集団・家族心理学 A（社会・集団心理学）	RorSR	○		
人間関係論	S	○		
心理学実験ⅠA・ⅠB	SR	○		
心理学実験ⅡA・ⅡB	SR			○
心理学研究法 A	RorSR		○	

※2017 年度以前入学者は「統計情報を見る眼または心理学統計法」「心理学概論」「福祉心理学」「社会心理学」「人間関係論」「心理学実験Ⅰ」「心理学実験Ⅱ」「心理学研究法Ⅰ」となります。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	論文講読の基礎	論文講読に必要なスキルについて概説します。
2	論文講読の基礎（実例）	教員によるデモ発表を行います。
3	論文講読⑴	受講者の方が選んだ論文を講読します。
4	論文講読⑵	受講者の方が選んだ論文を講読します。
5	論文講読⑶	受講者の方が選んだ論文を講読します。
6	論文講読⑷	受講者の方が選んだ論文を講読します。
7	論文講読⑸	受講者の方が選んだ論文を講読します。

8	論文講読⑹	受講者の方が選んだ論文を講読します。

※この演習はスクーリングを３回（いずれも日曜日を予定）に分けて、１・２回めを初日、3～5 回めを２日め、６～8 回めを３日めに行います。３回に分けて仙台に足を運ぶ必要があるので、ご注意ください。

■講義の進め方

毎時間一人の方に論文の要約を発表していただきます。その後、論文全文を参加者全員で読み、仮説、仮説が導かれる理論的プロセス、仮説検討方法（調査や実験内容）の妥当性、結果の妥当性について検討します。受講生はすべて１本の論文を要約して発表することが求められます。

■スクーリング　評価基準

積極的な参加態度

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10 時間）

１）文献の探し方と読み方については、初回スクーリング時に説明します。

２）「心理学研究」「社会心理学研究」「実験社会心理学研究」から関心のある論文をさがして、可能ならば初回スクーリング時にご持参ください。（実際にみなさんに論文をまとめて発表していただくのは２回目以降です）

３）論文の読み方は初回スクーリング時に教員が説明します。

４）自分が選んだ論文を理解するように努めてください。どのような理論的なプロセスによって仮説が導かれたのか、どのような実証的手法を用いて仮説を検討したのか、仮説が支持されたのかどうか、どのような考察が展開されているのかを要約できるようにしてください。

■スクーリング事後学習（学習時間の目安：20～25 時間）

自分が選んだ論文のどこにどのような問題があったのかを整理し、どのような改善策が求められるのかをまとめてください。また、その論文によって導かれた結果の妥当性を再度確認し、結果の適用範囲についても考えてください。

レポート学習

■在宅学習８のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	問題・背景の理解	仮説	論文で示されている仮説が、どのような理論的説明によって導かれたのかを理解する。
2	方法の理解	方法の適切さ	どのような方法を用いて仮説を検討しようとしているのかを理解する。
3	方法	実証的手法の適切さ	仮説検討のために用いられた実証的方法が適切かどうかを考える。
4	結果①	結果の把握	仮説が支持されたのかどうかを把握する。
5	結果②	分析手法の適切さ	どのような分析方法を用いているのかを理解し、仮説検討にふさわしいかどうかを考える。

6	考察	考察の理解	考察部分で述べられていることを理解する。
7	問題点の把握	問題点の把握	論文中の問題点を把握する。
8	問題点の改善	問題点の改善	問題点の改善案と知見の適用範囲を理解する。

■レポート課題

1 単位め	**（スクーリング事前課題）** 自分が発表しようと思う論文の要約を作って当日持参してください。
2 単位め	**（スクーリング事後課題）** スクーリングを通して明らかになった、自分の発表した論文の問題点について整理し、改善策を論じてください。また、知見の適用範囲についても論じてください。

※1 単位めレポートは添削指導を行いません。自分の発表する回の当日持参してください。

※2 単位めレポートは、通常のレポート形式で郵送してください。添削指導を行い、返却します。

■アドバイス

【1 単位めアドバイス】

自分の関心のある論文の要約をしてみましょう。「背景・目的」部分では、仮説は何か、どのようにその仮説が導かれたのかをまとめましょう。「方法」部分では、その仮説を検討するためにどのような実証的方法がとられたのか、参加者、調査内容 or 実験内容をまとめましょう。「結果」部分では、仮説が支持されたのか、仮説の支持 or 不支持という判断はどのような数的根拠によってもたらされたのかをまとめましょう。「考察」部分では、仮説が支持された理由、支持されなかった理由という観点からまとめましょう。詳細はスクーリング初日 1～2 回目で示します。

【2 単位めアドバイス】

スクーリングで検討した結果、自分が発表した論文にはどのような問題点が指摘されたのかをまとめましょう。その問題点をどうすれば解決することができるのかについてもまとめましょう。